

## 栃木市観光基本計画 第1回策定委員会 議事要旨

日時：平成25年6月28日（金）14：00～16：20

場所：栃木市 大宮公民館

### 開 会あいさつ

### 委員長あいさつ

### 委 員あいさつ（各委員）

### 事務局あいさつ

#### 委員長

これから審議していく計画は、今後9年間という長いスパンである。来年の岩舟町の合併を踏まえた、新しい栃木市の観光のランドデザイン化を図っていく。

### 資料説明（事務局） （1）基本計画概要について

#### 委員長

今回の趣旨を整理すると、1市5町の合併後、新たに観光のデザインを行い、各地域で得られた情報を一本化しようということ。

次に観光基礎調査から得られ課題についての説明をお願いします。

### 資料説明（事務局） （2）観光基礎調査から抽出された課題について

#### 委員長

今まで行政で整理をしてきた資料の中で、各地域における大所の課題は決まっているが、細部にわたる地域事情の分析を今後整理していく。

ご意見は如何でしょうか。

#### A委員

小山市や鹿沼市などでまちの駅があり、トイレ休憩や観光案内所として機能しているが、事務局としてはどのように考えているのか。

#### 事務局

現在、大平地域で18ヶ所のまちの駅が、来訪者の休憩、観光案内などミニミニ観光案内所として機能している。ただ、まちの駅に登録するには上部団体への負担金が必要となり課題となっている。

栃木地域にも登録はされていないが40ヶ所程度が機能している。今後は、各地域に広がれば一番良いと思うが、様々な課題もあることから、各地域の意見を伺いながら進めていきたいと考えている。

#### 委員長

B委員が考える理想の「まちの駅」像があれば答えていただきたい。

## B委員

まちの駅に登録するためのお金が負担になっていると思う。今後、栃木市が観光に力を入れていくということであれば、行政に補助金を出してもらえると助かるのではないかな。

## 委員長

C委員の所ではどのような活動をされているのか。

## C委員

保育所跡地を商工会青年部が地域のものを販売する場として活用していた。現在は、「大柿村はたるの里より処」と名前を変え、地域の皆さんと一緒に商工会のアンテナショップとして活動している。

## 委員長

地元と観光客の接点を持つということが実現している。

まちづくりの成功例を見ると、地域の方々が集い、コミュニケーションが十分に取れると、地域の活動が活発になり、外への発信につながってくると思う。

D委員、いかがでしょうか。

## D委員

そこに住む人が元気だと、まちも元気だと感じる。

今、観光客が変化してきていると感じる。観光客は観光地でなんでもまかり通るという風潮がある。10～20年前と比較すると観光客のマナーがない。(特に団体客)

先程のまちの駅の件ですが、大通りに面した店舗でもトイレは住まいの部分であり、受け入れる所と受け入れないところがある。理由としては、観光客のマナーがないから。

## E委員

P.7の「観光基礎調査から抽出された課題」としてよく整理されていると思う。旧栃木市は観光の先進地であり、旧藤岡町ではこのような見方をしてこなかった。渡良瀬遊水地の利用促進とあるが、まだ始まったばかりというのが現状だ。

例えば藤岡から西方まで一つの開発のラインをつくり、大平のブドウ、岩舟や西方のいちごなど、各地域の特産品を西方や藤岡の道の駅など、どこでも売れる(手にできる)ようにしてもらいたい。また、計画を進めるうえでは「オール栃木」で進めてもらいたい。

## F委員

P.5の「全体の課題」の中の回遊性について、栃木市の観光基本計画なので仕様がな部分はあるが、高速交通網が発達してきたので、栃木市を目的に来訪する人を狙うのは当然だが、佐野や日光への来訪者などの広域のネットワークから栃木市に引き込む事を考えた方が良く考える。(クローズよりオープン)

## 委員長

今後、整理できて来たら情報発信等について指南してもらいたいと思う。

皆さんのご意見をいただき、各論については沢山あると思う。また、皆さんのご意見を伺う時間をとるが、次は基本計画策定の方向性について説明をお願いします。

## 資料説明（事務局） （3）基本計画策定の方向性について

### 委員長

事務局の説明の中で、計画を進めていこうという流れが見えましたがご意見は如何でしょうか。

### G委員

国、県そして栃木市において観光客を呼び込んで地域の活性化を進めようとしている。現状、地域の商業地は疲弊している。計画の中で、観光客に対して手厚いサービスを考えている。一方、地域にお金を落としてもらい、物を買ってもらおうという部分が不足していると思う。地域にお金を落としてもらい販売戦略が重要だと思う。また、地域のブランド品（物産）を販売する拠点の整備が必要だと思う。

### 委員長

地域にどれくらいお金が落ちるかは大切なことである。ブランド品の育成を同時に行っている。お金の消費もどのようにデザインできるかも大切なことだ。事務局のチェックポイントとして入れていただきたい。

その他には如何でしょうか。

### H委員

P.1の「計画の期間」についてだが、9年間というのは長すぎるのではないか。悠長に感じる。また、成果品のイメージがわからない。

### 事務局

計画期間については、本市の上位計画である総合計画の期間に合わせている。その9年間で、すぐに実施する取組み、4～6年後に実施したい取組み、7～9年後には実施したい取組みなど、短・中・長期と3つに分けている。成果品については、皆さんの意見を取りまとめて、本市の総合計画のように製本して納める。

### 委員長

先行きが不透明で、3年計画も上手くいかない時代ではあるが、市の総合計画に合わせている。ただ、理想ばかり書いても仕方がないので、調整していきたいと思う。

### I委員

質問として、計画素案は、どこが、どのような形で作成し、どのような形で内容を議論するのか。

感想としては、自分のイメージよりも意外と宿泊数が多い。宿泊させることにより客単

価は大きくなるので、ニューツーリズムといわれる新しい観光形態を取り入れ、宿泊に結び付けてもらいたい。

#### 事務局

どこまでの内容を書き込めるかは現時点では申し上げられない。おそらく計画書の半分くらいしか埋められないと思うが、皆さんに検討してもらいたい。

#### 委員長

I委員の質問は、おそらく誰がやるのかという部分も含まれていると思うが、事務局中心にコンサルタントとともに作成するということで良いか。

#### 事務局

その通りである。

#### 篠原委員長

宿泊者数のご意見は、宿泊者数を増やす仕掛けの検討が必要だということが良いか。

#### I委員

例えば渡良瀬遊水地、大平観光ブドウ園等をからめた宿泊を伴う体験型のプログラムなどの観光施策を打ち出す必要があると思う。

#### 委員長

まさにI委員の話は着地型観光という、地元発信の体験型のプログラムだ。

地元の方で進んでいる話があれば教えていただきたい。

#### J委員

資料を配布して説明させていただきたい。現時点でも渡良瀬遊水地は観光客を引き付ける魅力がある。とちぎ夢ファーレという補助金をいただき、昨年度遊水地ツアー（3コース）を開催した。今年度も配布した資料の通り計画している。補助金の審査の結果、費用対効果が少ないのではないかと指摘があったので、一日に種別を2つ、3コースで設定している。企画を進めていく上での課題は、どのように情報発信（告知）の仕方にある。着地型観光は市外・県外の方をターゲットにしている。

#### 委員長

こうしたことを積み重ね、このようなイベントを増やしていくことが大切だと考える。その他には如何でしょうか。

#### K委員

農産物の旬を発信できるシステムをつくる。まずは栃木市民に喜ばれる企画を実施し、それらを市外・県外に発信することでロコミも広がり、さらに良いものになると思う。

#### 委員長

貴重なキーワードが入っていた。地元の方々が楽しめる仕組みをつくり、良いまちをつ

くり、それを自慢していく。来てもらうのではなく、みせてあげるというスタンスが大切だと考える。その他には如何でしょうか。

## L 委員

委員長が言った「地元の人が楽しむ」という言葉に共感した。

自分の会社の20～30代の女性は、外に何を土産に持っていけばよいかわからない。素晴らしいものがあるのに気付かないのが現状である。まず、若い人達に自慢できるものがあるということを気付かせ、意識させることが大切だと思う。

情報発信する立場から、栃木市は色々な取組みが行われている。伝建地区におしゃれなカフェや雑貨店の出店、小学生を対象にした観光大使の育成などである。一番の関心ごとは、先日の市長の発言の遊水地のハートランド構想である。

## 委員長

ブランドの冊子はできている。実際市民がおいしいとか珍しいとか人にあげたいと考えているか問題がある。市民が認めているものをブランド化していくのが大切だと考える。

皆さんのご意見等を踏まえ私の方でまとめたいと思う。

1市5町が合併をして新しい観光デザインをつくるということ。観光に対し興味があるか、それぞれの地域により異なると思う。市町村合併ののち、地域振興を行っていく上で大切なことは、地域振興の熱を一定に合わせることである。

### ■地域観光コンセプトづくり5つのポイント

- ①資源発掘の視点（ターゲットと付加価値をどのようにつけるか）
- ②顧客価値の視点（お客様の価値は何なのか）
- ③資源編集の視点（資源をどのようにつなげるか）
- ④事業モデル化の視点
- ⑤人材育成の視点（地域の中で頑張る人を増やす）

### ■地域資源を活かす上での着眼点

- ①地域の誇り探し
- ②自然・農業・文化・人・知恵・生き方
- ③自分の売り（地域のセールスポイントの整理、地元らしさ、地元のおい）

地域の活動が根差して、上記の整理を各地域で行い、取りまとめていくことができれば、新しい栃木市の観光のデザインが見えてくると思う。絶対のポイントは、それぞれの委員の皆さんがどのような街にしたいかという点だ。市民がどのようなまちにしたいのか、各地域でよく検討し、それを持ち寄って計画につなげていくことが成功のポイントと感じる。

**講演** 「市町村合併後の観光地域振興について」(跡見学園女子大学 准教授 篠原 靖 氏)

最終的に成果を出せるまちづくり⇒「各地域を取りまとめるエリア毎のリーダー」と「全体を取りまとめる観光プロデューサー」がそれぞれ責任を持つ

観光とは人がつくりあげるもの(「人材の育成」「みんなの協力」「熱い思い」が1つになることが大切)

**E委員**

渡良瀬遊水地での花火大会やバルーンフェスティバル等のイベント時に多くの来訪者がいる。東京、埼玉方面の来訪者はキャンピングカーでの宿泊、バルーンフェスティバルパイロットやその他の人は古河市や小山市での宿泊が多いのが現状だ。栃木市観光のスタート地点とし、遊水地周辺に宿泊施設を整備すれば、藤岡から西方までのイメージがつけられると思う。出来るだけ具体的に実現できるようにしたいと思う。

**委員長**

箱モノは確かに大切だと思うが、来訪者が楽しめる仕組みをしっかりとつくりあげることが最も重要だと考える。まずは、楽しめる仕組みをここ1、2年でつくりあげ、そうした仕組みは宿泊しなければできないというシナリオを明確にするべきだと思う。

**D委員**

昨日、市民を対象に新生栃木市を歩くというバスツアーがあった。40名の定員に対し60名の募集があった。バスツアーを開催し、自分の地域のことはわかっている、他の地域のことは知らないという方が多いということがわかった。皆さん、次の会議までに、自分の足で、自分の目で新生栃木市を見ていただきたいと考える。

**閉会あいさつ**